

茨城大学農学部 のらボーイ&のらガール食農教育プロジェクト 地域との関わりを大事にした食農教育

代表者：農学部地域総合農学科 3年 武田 迅

連携先

農園

そば農家（個人）

そば打ち同好会

阿見町男女共同参画センター

JTファーム

グラウンドワーク笠間

顧問教員

小松崎 将一 農学部教授

参加者

浦本 匠	農学部食生命科学科 3年
山田 寛大	農学部食生命科学科 3年
秋山 健太	農学部食生命科学科 3年
川村 拓	農学部地域総合農学科 3年
鴻巣 友宏	農学部地域総合農学科 3年
佐柄 朝飛	農学部地域総合農学科 3年
高嶋 尚哉	農学部地域総合農学科 3年
武田 迅	農学部地域総合農学科 3年
野口 和太	農学部地域総合農学科 3年
加藤 達弘	農学部資源生物科学科 4年
菊池 裕貴	農学部資源生物科学科 4年
青地 沙紀	農学部生物生産科学科 4年
佐藤 菜々実	農学部生物生産科学科 4年
萬代 津希	農学部生物生産科学科 4年
中駄 佑介	農学部資源生物科学科 4年
熊倉 琴音	農学部地域環境科学科 4年
黒田 麗香	農学部地域環境科学科 4年
佐藤 志穂美	農学部地域環境科学科 4年
綿引 彩華	農学部地域環境科学科 4年
一石 美咲	農学部地域環境科学科 4年
磯崎 友輔	農学部食生命科学科 2年
遠山 可奈	農学部食生命科学科 2年
遠山 佳甫	農学部食生命科学科 2年
宮本 拓武	農学部食生命科学科 2年

プロジェクトの概要

阿見町を中心とし、地域の方々との関わりを大切にすること、また、耕作放棄地となっていた土地を畑として使用することにより、耕作放棄地の有効利用することを目的としました。

上記の目的を意識し、地域の方にお借りしている畑を使用し、そばの種まき、そばの収穫、そば打ちイベントを地域の子どもたち、保護者の方々とともに行うことにより、食農教育について深く考えていただくとともに、私たち学生もより一層食農教育を深く考える機会となることを目標として行いました。

その他にも、2月に農業・農村を応援する大学生サークルネットと呼ばれる組織の活動への参加、10月に行われた茨城大学農学部の文化祭「鋤耕祭」へ参加し、出店しました。

活動は、週1日で主に土曜日の午前中に行いました。また、イベントやその他有事の際は、その都度活動を実施しました。

プロジェクトの成果報告

1 耕作放棄地となっていた土地の有効利用について

昨年お借りしている畑で、耕作放棄地となっていた場所を今年は畑とし、有効利用することを目的としました。

耕作放棄地となっていた場所を畑とする際、不必要な草木、石の排除や地域の方の力をお借りして土地の整地を行いました。

また、作物を育てるために適切な土壌の状態にするために、土壌診断を実施していただきました。診断結果をもとに、馬糞や肥料の量を調節し、畑の状態を整えました。そして、農作物の収量を上げることができ、

イベントでも、野菜の収穫などを行い、楽しんでいただくことができました。

2 イベントの企画・運営について

1) 企画について

イベントを実施するにあたり、イベント実施日の確定、阿見町男女共同参画センターの方と、参加していただく子どもたち、保護者の方に配布するチラシについての日程調整、チラシの作成、イベントで使用する道具の借用についての申請、イベントの前日準備など多岐にわたりました。

地域の方のご協力や助言、団体内での話し合いや日程調整、ご協力のもと、企画、実施に至ることが出来ました。

2) 運営について

阿見町男女共同参画センターの方、そば農家の方、農園の方、そば打ち同好会の方、JTファームの方のご協力のもと、開催することが出来ました。

今年度、阿見町の地域の方々と8月にそばの種まきイベント、11月にそばの収穫イベント、12月にそば打ちイベントを行いました。

8月のそばの種まきイベントでは、数多くの子どもたち、保護者の方にご参加いただきました。昼食では、畑で採れた野菜を使用し、カレーを作りました。参加していただいた皆様に楽しんでもらえ、有意義なものになったと感じました。



写真1. そばの種まきイベントの様子

11月のそばの収穫イベントでは、数多くの子どもたち、保護者の方にご参加いただきました。そば農家やそば打ち同好会の方からお借りした唐箕や脱穀機を使用し、学

生とご家族の方で協力し、実際にそばを収穫しそばの実を分ける作業を体験しました。



写真2. そばの収穫イベントでの集合写真

12月のそば打ちイベントでは、阿見町中央公民館をお借りして行いました。そば打ち同好会の方のご指導の下、参加していただいたご家族と学生で力を合わせながら、そばを作ることが出来ました。

また、イベントでは、子供たちとレクリエーションや作物、農業に関連する授業を行いました。

これらの1年間のそばに関連するイベントを通じ、参加していただいた子どもたち、保護者の方々に、われわれの活動目的興味を持っていただけて、その活動が阿見町の地域活性化に繋がったのではないかと思いますので良かったです。

3 農業・農村を応援する大学サークルネットの活動の参加について

農業・農村を応援する大学サークルネットに加盟している大学での親睦会が沖縄でありました。親睦会では、他大学の参加者との交流、サトウキビ収穫など、普段体験できないような経験をし、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。

4 茨城大学農学部での文化祭「鋤耕祭」への出店について

鋤耕祭では、さつまいも、カボチャを用いたポタージュ、焼き芋の販売を行い、予定していた量の販売ができました。

5 今年度の振り返りと来年度への展望

1) 反省点

今年度3回のイベントを行うにあたり、準備～企画、運営に至る一連の流れの中で、計画が不十分になってしまった部分も存在したため、もっと密になって計画を立てるべきだと感じました。

また、定期的に話し合いを行い、情報共有や意思疎通を図り、円滑に進めるべきだと感じました。

2) 良かった点

阿見町の町民の方と連携をとり、1つ1つのイベントの意味を理解し、イベントでは、子供たちや保護者の方と楽しく触れ合うことができ、イベントでの作物に関する授業を通し、阿見町の地域活性化と食農教育について考えていただく機会を提供することができました。

3) 来年度への展望

今年も地域活性化に向け、活動を実施してきましたが、まだまだ解決できていない問題が数多く存在すると思うので、イベントを通し、考えていければと思います。

最後に、今年度イベントを行うにあたり、プロジェクトメンバーの至らない点多々ありましたが、ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。